

景観を守るための色とは？

「下田まち遺産」という枠組みを通じて我々にとって大切な下田の美しさを維持、保存していく計画が「下田市景観計画」です。

この下田市景観計画の中に「けいけんゆうどう景観誘導」という考え方が示されています。これは、新築や増築する持ち主の方々に対し、下田市として「外観に対し、こういう配慮をしてくれると嬉しい」という配慮の基準を示すものです。建物の高さを周辺に対して目立たないように抑えていただくようお願いしたり、周辺環境に調和した配色をお願いしたりしています。

景観計画の中には「特定の色にしてください」という指定はありません。しかし、ここに示す事例のように様々な経過を経て建築物の「色」が示され、実際に建築されました。今回は、どのように「色」が決められていったのか、過去の取組事例を紹介します。



審議会の委員が現地で色見本を見ながら検討することもあります

「景観まちづくり審議会」とは
景観計画及び景観まちづくり条例に関する重要事項を審議していただく方々で、現在は7名で組織されています。

橋編

交通には欠かせない橋。

小さいものから大きいものまで、日常に目にすることが多いので
景観にも配慮した色を選ぶ必要があります。

立野歩道橋



施工前

ポイント 稲生沢小学校前の歩道橋の塗り替え。以前の色はライトイエローでしたが、同じ色で塗り替えた場合は、かなり明るくなるということで、周囲の自然環境に配慮し、ライトグレーを選びました。

寝姿橋



施工前

ポイント 東本郷地区と中地区を結ぶ稲生沢川に架かる橋の耐震補強。補強に合わせて橋の欄干の色を変更しました。以前はアルミ色のグレー系でしたが、周辺の景観に溶け込むよう、ダークブラウンとしました。

春日山鉄橋



施工前

ポイント 下田公園から春日山に架かる鉄橋の塗り替え。以前は赤色が選択されていましたが、その色についての理由がなかったこともあり、周囲の自然環境に配慮し、ダークグレーを選びました。

蓮台寺橋



施工前

ポイント 蓮台寺地域に架かる鉄橋の塗り替え。以前は赤色が選択されていましたが、その色についての理由がなかったこともあり、周囲の自然環境に配慮し、ダークグレーを選びました。

建物編

市内では比較的大きな公共建築の塗り替えと新築について、
外壁の色は景観に大きく影響します。
今後の同じようなケースを想定し、全てを同系色にする判断をしました。

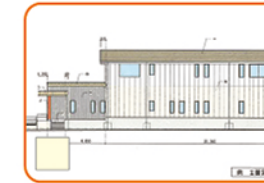
敷根プール外壁



施工前

ポイント 平成3年に建設された敷根プール。経年劣化により、白い外壁に汚れが目立つようになり、新しく塗り替えるにあたり、色彩を検討し、近くにある中学校と同系色で、周囲の自然の緑を損なわない色を選定しました。

給食センター外壁



計画案

ポイント 須崎に建設された給食センター。国立公園付近ということもあり、周辺の景観を損なわない自然色としました。また、隣接する浜崎小学校からの見え方を考慮し、1階屋根上に設置する屋外機器等を、目立たないようにする配慮をしました。

こども園外壁



計画案

ポイント 敷根に建設されたこども園。当初の計画にあった外壁の色について検討しました。カラフルなグリーンやピンクの色が計画されていましたが、この周辺は公共建築が多いこともあり、下田中学校や敷根プールに合わせた色に変更されました。

道路舗装編

車と歩行者の接触を回避するための道路舗装。

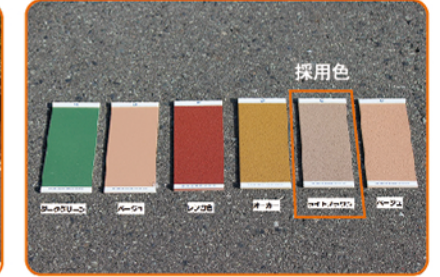
事故が起きないように人が認識できる色を選ぶ重要性和
景観に配慮する重要性。双方を成立させる考え方について話し合いました。

河内カラー舗装

ポイント 車と歩行者による接触事故を回避するために道路を色付き舗装する事例に対して、いかに景観に配慮した上で、道路と歩行路を分ける色を選択するかを議論しました。結果的にライトブラウンを選ぶことで、極端に違和感を感じない舗装となりました。



実際に施工したカラー舗装



カラーサンプルを現地で比較しました

まとめ

以上のように、市では景観まちづくり審議会委員の皆さまの助言をいただきながら、それぞれの建築物、周辺の状況に合った「配色」をお願いしています。色をあらかじめ決めておいた方が楽に思えるかもしれませんが、景観に合った「色」というのは表やチャートなどで示せるものではなく、同じ場所でもその建物の用途など多彩な条件が重なって調和が保たれ、示されるものです。このことは、建物を建てる方々の個性や主義を規制するものではなく、お互い話し合いを持って、下田らしい、皆さまそれぞれのまち遺産を活かすためのお願いになります。ご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。